

産学協力研究委員会「日本におけるケミカルバイオロジーの新展開第 189 委員会」
特別事業（知識や技術の伝承等とりまとめ）
「ケミカルバイオロジーの発展に貢献してきた化合物」
平成 28 年度 第 1 回編集会議 議事抄録

日時：平成 28 年 6 月 10 日（金）12:00-13:00

場所：大手町サンケイプラザ 2F 201 号室 東京都千代田区大手町 1-7-2

出席者：【敬称略】

長田 裕之(理化学研究所) 井本 正哉(慶應義塾大学) 上村 大輔(神奈川大学)

永野 栄喜(住友化学株) 町谷 幸三(日本農薬株)

事務局：平野 弘之(理化学研究所) 山口 直美(理化学研究所)

(学界委員 3 名 産業界委員 2 名 随伴 2 名)

議事内容：

1. 特別事業（知識や技術の伝承等とりまとめ）の採択について
3 月 29 日 特別事業に採択された旨通知があった。
2. 特別事業（知識や技術の伝承等とりまとめ）への応募と援助
・ケミカルバイオロジーの発展に貢献してきた化合物の取りまとめ経費への援助として
計画書を提出
援助額は 平成 28 年度 100 万円(3 年間 300 万円の予定)
3. 編集方針について
出版社 Springer JAPAN から提案されている”生理活性物質のエンサイクロペディア”
の作成 収載化合物には、論文化された生理活性化合物を中心に合成化合物、農薬の範
囲も含める。
Online で執筆することができる。新規化合物の情報集積、論文の要約データシートを
若い研究者中心に著作してもらう。
JSPS の事業としては刊行物となることが必要であり、データが集積された 3 年後には刊
行物(書籍)とする。
189 委員会委員には執筆メンバーとして参画を要請、また 海外の重要なメンバーの参
画を要請する。

質疑では、出版物の著作権と印税の取り扱いがあがったが、出版社の方針にもよるが学術
誌の領域では部数も少なく印税はほとんどないのが実情、メンバーのメリットとして
「Online データベースの情報検索にアクセスできる。」などが委員長より説明された。

まとめ

「ケミカルバイオロジーの発展に貢献してきた化合物」
”生理活性物質のエンサイクロペディア”を作成することに異議なく決定
幹事会+委員会で説明する。